

令和6年度「人権教育研究指定校事業」指定校事業報告書

委託先（ 徳島県 ）

1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自他の人権を尊重し、共生できる生徒の育成
----------	----------------------

○調査研究のテーマを設定した目的

本校では、長年「今日も来てよかった日和佐中学校」という生活目標を掲げ、生徒を主体とした校則の見直しなど学校生活の点検を行ってきた。この生活目標を、改めて指導目標に掲げ、生徒の主体的な活動や他者との積極的なコミュニケーションを促し、互いを大切に思い認め合うことにつなげようと、具体的な指導の改善・工夫に取り組み、人権意識の醸成をめざしてきた。

これまで授業中はもちろん、日常の様々な場面で指導を行ってきた。文化祭の劇では学級全員が参加し、生徒集会では、全員が発言できることをめざした。しかし、授業で自ら発表する生徒は同じ顔ぶれで、集会の場では当たり障りのない形式的な発言になりがちで、人権問題を自分事として捉える力が十分ではなかった。そこで、差別の実態から深く学ぶための体験的な学習を重視し、その学びを生徒自身の言葉でわかりやすく表現する教育活動を取り入れることにした。これを「日中トーク」と名付け、本校の伝統とし、継続して取り組み、根付かせることで、人権学習で学んだことを日常化（生活化）させ、人権学習に明るさや楽しさを見出し、意欲的に取り組み、自ら実践する生徒を育成できるのではないかと考えた。

「日中トーク」は、生徒がこれまでの学習を振り返って題材を探し、よりわかりやすく楽しい表現になるよう話し合う活動が主眼である。話し合いを通じて生徒の人権意識を高め、活動から学び、他者を承認できる学級・学校をつくりあげることがめざす。この、互いに承認する経験が、自他の人権を尊重し、共生していく生徒の育成につながるのではないかと考える。

「今日も来てよかった日和佐中学校」を、生徒全員が日々実感できる環境、それは自他の人権が尊重されていることが前提である。生徒個々が互いの人権を認め、共生できる学校をつくりあげるため、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

①体験的な学びを重視した人権教育の推進と、人権の視点に立った学校環境づくり

②コミュニケーション能力の育成とプレゼンテーションのスキルアップをめざした教育活動の展開

③「日中トーク」の実施

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

美波町立日和佐中学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

5学級（うち特別支援学級：2学級）

○児童生徒数

全生徒数：76名（令和7年1月9日現在）

○URL

https://school.e-tokushima.or.jp/jh_hiwasa/

○指定理由

美波町では平成18年に日和佐町と由岐町が合併した際に「美波町部落差別解消の推進及び人権擁護に関する条例」を制定し、町が一体となって人権教育に取り組んでいる。今年は、コロナ禍のために中止になっていた美波町地域別人権懇話会が4年ぶりに開催され、わかりやすく楽しい懇話会から人権について考える取組を行っている。

日和佐中学校では、令和5年度県教育委員会指定「多様性を認め合う人権教育推進協力校事業」の指定を受け、「自分を素直に表現し、互いに認め合い、共に伸びようとする生徒の育成」をめざし、教科横断的に計画推進を行っている。生徒は素直で、課題に真剣に向き合うことができるが、授業内容が自分事として捉えられず、日常化（生活化）に至っていない生徒もおり、友達を傷付ける発言がみられる。

そこで、令和5年度からコミュニケーション能力や表現力の向上を図るため、自分や他人を大切に思いやりながら、言葉のやり取りにおいて、聞いている人に笑顔と学びを同時に感じさせる「日中トーク」に取り組んでいる。その活動によって、互いのつながりをしっかりと実感でき、互いを認め合うことでさらなる人権感覚の向上に努めている。

また、今年度は内閣官房拉致問題対策本部事務局が主催した「拉致問題に関するこどもサミット」に参加するなど、積極的に様々な人権課題解決に向けて取り組んでいる。

令和6年度は、令和5年度の研究をさらに発展させ、人権教育の推進を図るとともに、研究成果を研究発表会等で広く普及することで、日中トークのような新たな取組が、県内人権教育の一層の充実及び発展に期待できるため、日和佐中学校を指定することが最適であると考えられる。

3. 取り組んだ人権課題について

取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可。うち、最も主要な人権課題1つに◎をつけること。）

①子供	○
②女性	○
③高齢者	○
④障害者	○
⑤回和問題	◎
⑥アイヌの人々	○
⑦外国人	○
⑧-1 HIV感染者等	○
⑧-2 ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	○
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑬性的指向、性自認	○
⑭その他（災害時における人権）	○

4. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

令和5年度、「日中トーク」を実施した。初めての取組で、教職員も生徒も手探りではあったが、参観日に各学級で「日中トーク」を披露した。その後の生徒対象アンケートでは、「楽しかった」「まあまあ楽しかった」という回答が91%を占めた。楽しかったところとして（複数回答）「他の人のトークがおもしろかった」が86%、日中トークをしてよくなったと思うもの（複数回答）に、「友だちとの関係」、「コミュニケーション能力」を挙げた生徒が各学級で半数いた。

しかし、「日中トーク」の活動が生徒の生活に根ざし、有効に機能するためには、今後も継続して取り組み、回数を重ねる必要がある。自分たちの学級だけでなく他学年の「トーク」を見ることは、互いに刺激を受けて、よりよいものに昇華しようとする意欲につながるとともに、日中トークの条件を守りながら、学校全体として共に「日中トーク」に取り組むことは、テーマである「自他の人権を尊重し、共生できる生徒の育成」につながると考える。

また、「日中トーク」と平行して、その題材になる、人権についての学びも深めていく。普遍的な内容はもちろん、個別人権課題についても、体験的な学びを重視した人権教育を推進していく。いくつかの個別人権課題は、生徒の日常から遠く、意識されにくい。学習機会が少ないと、その課題を重要だと意識しにくいことが、生徒への人権アンケートに表れている。一方、当事者の体験談を聞いた課題は、重要だという意識が高い。そのため、講師と出会うことで、具体的な話や体験を通して、共感したり多様な生き方に気付いたりする機会を多く与えたい。

生徒のコミュニケーション能力の育成、プレゼンテーションのスキルアップ、及び、それらの能力育成のため、教職員の資質向上のための研修の充実に務める。

○実施方法

①体験的な学びを重視した人権教育の推進と、人権尊重の視点に立った学校環境づくり

- ・体験的な学びを取り入れる授業の工夫
- ・個別人権課題についての教育の推進
- ・講師を招いての講演や体験活動の計画
- ・地域の特別支援学校との行事交流や地域行事への参加の促進
- ・生徒会活動の充実
- ・人権尊重の視点に立った掲示物作成の工夫
- ・異学年活動の充実による人間関係の醸成
- ・オンラインで授業をライブ配信し、別室登校の生徒や他学年と授業の様子を共有

②コミュニケーション能力の育成とプレゼンテーションのスキルアップをめざした教育活動の展開

- ・ ICT を活用し、プレゼンテーション作成やまとめ学習を活動に取り入れる工夫
- ・ 様々な組み合わせでのペアワークや班活動の実施
- ・ 各教科におけるプレゼンテーションのスキルアップにつながる授業の工夫
- ・ 教職員自身の知識やスキルを更新する研修の充実

③「日中トーク」の実施

- ・ 学びの日常化につながる話し合い活動の工夫
- ・ 話し合い活動を取り入れる授業の工夫
- ・ 生徒の生活へつなげるための発問の工夫
- ・ 話し合い活動のルールの徹底

○検証・評価・改善・普及

○生徒の変容の検証・評価

- ・ 単元前後にアンケートを実施、生徒の変容を検証
- ・ 生徒の人権意識についてのアンケート調査を行い、評価・検証
- ・ hyper-QU テスト、学校評価アンケートなど、前年度と比較
- ・ 生活記録、授業のワークシート、講演会の感想、日常生活の会話などから生徒の意識の変容等を検証

○改善・普及について……生徒の変容の検証・評価を生かして

- ・ 生徒の活動や状況を、学年通信や学校だより、ホームページ等により、地域や保護者へ周知
- ・ 他教科・他学年の授業参観を互に行い、教職員間の授業評価や生徒の情報交換
- ・ 研究授業後の授業研究会の充実と授業改善
- ・ 日和佐小学校と連携、人権学習の研究授業参観

○取組の成果について

令和6年6月の生徒への人権に関するアンケートと9月末のアンケートの比較から

「自分が大切にされていると感じるのはどんな場所ですか」

「友達といるとき」71%（6月） → 77%（9月）

「あなたが人権を傷付けられたらどうしますか」

「友達に相談する」59%（6月） → 62%（9月）

「あなたが、友達の人権が傷付けられたのを知ったら、どうしますか」

「ほかの友達に相談する」36%（6月） → 55%（9月）

これらのことから、生徒にとって、友達との関係がよくなっていることがわかる。話し合い活動でも、班員の話最後まで聞いてから発言し、自分と異なる意見も尊重する姿勢が見られるようになった。これらの相手を尊重する態度が、学級や学校の安心感、友達への信頼につながっていると感じる。

そして、9月のアンケートの「今年度、自分が成長できていると感じること」は、

「話し合いのとき、自分の意見を言う」33%（1年）54%（2年）58%（3年）

「友達が話しているとき、その話を最後まで聴く」52%（1年）69%（2年）88%（3年）

「相手の気持ちを考えて、話をする」38%（1年）69%（2年）81%（3年）

となっており、学年が上がるにつれ、話し合い活動で成長できていると感じる生徒の割合が増えており、昨年度から取り組んでいる「日中トーク」の成果が現れている。特に、分団（異学年集団）活動で、体育祭の応援合戦などのために、夏休みや休み時間を使って内容や工夫を相談していた3年生は、自ら進んで話し合いを行う機会が多かったこと、その結果、体育祭が成功したことも自信となり、この結果につながっていると考えられる。

生徒にとって、学級・学校が安心できる場所になり、それを土台とした「日中トーク」の取組が、生徒の自己肯定感の向上や積極的にコミュニケーションをとっていかこうとする意欲の向上につながっている。そして、「日中トーク」の機会を充実させたことが、生徒の人権感覚の高まりにつながったと考えられる。また、他学年の人権学習の様子をオンライン配信することが、話し合い活動への刺激になった。学級の雰囲気も前向きで、人権意識の高揚が感じられるものになってきている。どの学年でも、文化祭の合唱や劇（日中トーク）をつくっていく活動では、目標に向かって一丸となって取り組み、達成できるよう努力する姿が見られた。笑顔が増え、メリハリをつけた生活ができるようになってきている。学級の雰囲気や連帯感の向上が感じられる。人権学習を通して、自他の人権を大切にすることを学び、共に生きるために必要なことは何か、どうすればよいかを考え、話し合ったこと、そして学級の安心感が、生徒の心情の変化や行動の変容をもたらしたのだと考えている。

○今後の課題と改善に向けて

これまで、「日中トーク」の目標である、自分の思いを語り、友達の思いに寄り添う姿勢を身に付けられるように取り組んできたが、今後の課題は、そのさらなる向上をめざし、生徒全員が自分の思いを伝える力を高め、より適切な伝え方を身に付けることだろう。

そのためにはまず、教室や学校が生徒にとって安心できる場所であればならない。人権に関するアンケートでは、「自分が大切にされていると感じるのはどんな場所ですか」という問いに対して、「学校にいるとき」を選択した生徒は、6月の50%から、9月末に58%になった。しかし、まだ4割の生徒が、学校は自分が大切にされていると感じる場所ではないということになる。すべての生徒にとって学校が安心できる場所になるように、一人一人を大切に、小規模校の強みを生かし、担任を中心に保護者と連携をとり、全教職員が生徒の状況や心情の変化に寄り添っていく、日常の取組をより高めていきたい。

教職員が「日中トーク」の本質を体現し、生徒のことや人権について語り合い、生徒に寄り添う教職員集団にならねばならない。そして、生徒が人権学習の授業に参加してみたいと思えるような授業・学級をつくっていく。さらなる授業力と人権意識の向上のため、研修と研鑽を積み、一致団結して取り組んでいきたい。

5. 人権教育にかかる年間計画

人権教育年間計画

1. 本校の現状と取り組み

(1) 校区の環境

平成 18 年 3 月 31 日、日和佐町と由岐町が合併して、新たに美波町が誕生した。本校区は日和佐地区（旧日和佐町）にあり、四国 23 番札所薬王寺の門前町として栄え、自然環境に恵まれ、山側の農村地域、中央の商業地域、海側の漁業地域とそれぞれの特徴をもっている。

薬王寺とともに大浜海岸に産卵に訪れるアカウミガメが有名で、毎年多くの観光客が訪れているが、近年の急激な過疎化に伴い、人口が著しく減少の傾向にある。

美波町では町民への同和問題・人権問題の解決にむけて、町人権教育推進協議会を中心に、地域懇話会や講演会などの啓発・研修が行われ、差別解消への取組が続けられている。また、校区には阿南支援学校ひわさ分校があり、本校とは運動会や文化祭、授業交流などの交流が行われてきた。新型コロナウイルス対策のため中止あるいは縮小されてきた取り組みや交流が、昨年度より少しずつ復活してきている。しかし、元のような活動ができるか、人々の意識の変化など先行きが不透明である。

(2) 本校の実態と生徒の意識

①本校の実態

生徒数 76 名、5 学級（特別支援学級 2）の小規模校である。校訓「自律 敬愛 創造」のもとに、人間尊重の精神を基盤として、豊かな人間性の育成を図り、たくましく生きる生徒の育成を推進している。

町の過疎化に伴い、生徒数も 2013 年に二桁になった。しかしここ数年は全校生徒 70 人前後で推移しており、しばらくはこの状態が続くと推測されている。

学年	生徒数		
	男子	女子	計
1	6	16	22
2	12	16	28
3	15	11	26
計	33	43	76

2024. 4. 1現在

本校は、学校スローガン「今日も来てよかった日和佐中学校」を合い言葉に、日常の教育活動の充実に努めることを基盤に、町内交流活動などにも積極的に参加してきた。ここ数年は新型コロナウイルス対策のために参加体験型学習が十分でできていなかったが、今年度は再び参加体験型学習を多く取り入れた教育活動を進めていく予定である。

また、本校には、生徒会主体に、頭髮自由化や先輩後輩関係の改善など、学校生活の見直しを図ってきた伝統がある。全校生徒が意見を交換する場である「さわやか集会」では、この伝統を受け継ぎ、生徒たちは「今日も来てよかった日和佐中学校にしていこう」と意見を出し、学校生活で感じた気持ちを語り合う。自分の意見を発表し、意見をつなげて、あの子も頑張って発表しているのだから、自分も続いていこうという気持ちを育てていこうと、全員が自分から挙手して発言することを目指して指導してきた。学年が上がるにつれ、挙手して発言できる生徒が増えていく。しかし、互いの様子を窺い、当たり障りのない意見に終始することも多く、状況の打破のための方策を必要としていた。

②生徒の意識・状況

本校の生徒は、純朴で、明るく素直である。真面目で、決まったことには自分なりに一生懸命取り組むことができる。しかし、自主性にはまだまだ課題が見られる。自分の意見があっても、大人数の場面では互いの様子を窺い、意見を言えないことが多い。言えたとしても、当たり障りのない意見に終始しがちである。

また、面と向かって自分の気持ちを伝えるのが苦手な生徒が多い。小規模校故に人間関係にあまり変化がないためか、自分の気持ちを伝えることで起こる反応を必要以上に恐れ、不満を抱えながらも、相手に直接言えずに黙ってしまう。そのことによって、トラブルにつながってしまう

こともあった。

人権学習においても、同和問題や障がい者に対する人権問題を他人事と考えたり、同情だけで終わらせてしまう生徒が少なくない。課題には真面目に向き合い、事後の感想には学習した内容を反映して前向きな意見や自分の生活を見直そうとする意見が出るものの、日常化（生活化）に至らず、陰口や仲間外しのような言動が継続している。そのことで悩む生徒がおり、そのような状況に気付きながらも、解決に向けて主体的に行動できる生徒が少ない。

学校評価アンケートの「自分自身の生活に関する回答」では、「自分の周りで傷付ける言葉を言ったり無視をするなどのいじめはみたことがない」という質問に、1（まったくあてはまらない）～4（よくあてはまる）の数値で評価した結果は、2.9で、ここ数年を見ても大きな変動がない。この改善も日和佐中学校の大きな課題である。

(3) 「日中トーク」の取組

このような現状を打破するため、生徒の主体的な活動や他者との積極的なコミュニケーションを促し、互いを大切に思い、認め合う場を必要とした。そこで、令和5年度より、人権についての学びを生徒自身の言葉で伝え、「楽しくわかりやすく」を目標に取り組み活動「日中トーク」と名付け、教育活動に取り入れることにした。

「日中トーク」は、すばらしいトークを作りあげること自体が目的ではない。生徒たちが各班、各ペアで、どんなトークにするかを、これまでの学習を見直して題材を探し、よりわかりやすく楽しいものになるよう話し合う、その話し合い活動が主眼である。

そして、活動から学び、他者のトークを承認できる学級・学校を作りあげることをめざす。この、互いに承認する経験が、自他の人権を尊重し、共生していく生徒の育成につながるだろう。

「日中トーク」の基本ルールは、マイナス言葉を使わない、暴力は使わないことである。そのため、自分たちの使う言葉を意識しながら、言葉をやり取りさせる。その話し合う活動を通じて、言葉に現れる人権意識を高めたい。

「日中トーク」と名付けたこの活動を本校の伝統とし、継続して取り組み、根付かせることで、生徒に人権学習を日常化（生活化）させること、人権学習に明るさや楽しさを見い出し、意欲的に取り組もうとする生徒を育成できるのではないかと考えた。

また、「日中トーク」と平行して、その題材となる人権についての学びも深めていく。普遍的な人権課題はもちろん、個人人権課題についても、教科横断的、体験的な学びを重視した人権教育を推進していく。いくつかの個人人権課題は、生徒の日常から遠く、意識されにくい。学習機会が少ないと、その課題を重要だと意識しにくいことが、生徒への人権アンケートに顕れている。逆に、当事者の体験談を聞いた課題は、重要だという意識が高い。そのため、講師を呼んで体験に基づく話を聞いたり、オンラインにより外部と交流したりするなど、具体的な話や体験を通して、共感したり多様な生き方に気付いたりする機会を多く与えたい。

これらの取組への挑戦により、「今日も来てよかった日和佐中学校」に迫る。

① 「日中トーク」の基本ルール

○悪口などのマイナス言葉は使わない！ ○人を傷付ける行為はしない！

* 「人の心を温かくするトーク・笑顔」をめざす。

② コンビ・ユニット・・・日中トークのねらいを明確化する

○だれでもコンビを組めるように。仲良しで、学級で、異学年で。

○人前に出るのが苦手な子は様子を見させ、台本づくりなど、違う形で参加してもいい。

③ 「日中トーク」の実施方法

○学級活動と総合的な学習の時間に、全学年で実施。

○日中トークの実施時期と場所、形式を複数回設定し、生徒に周知。参観日や集会、オープンスクールなどと合わせて計画し、保護者に参観してもらう。

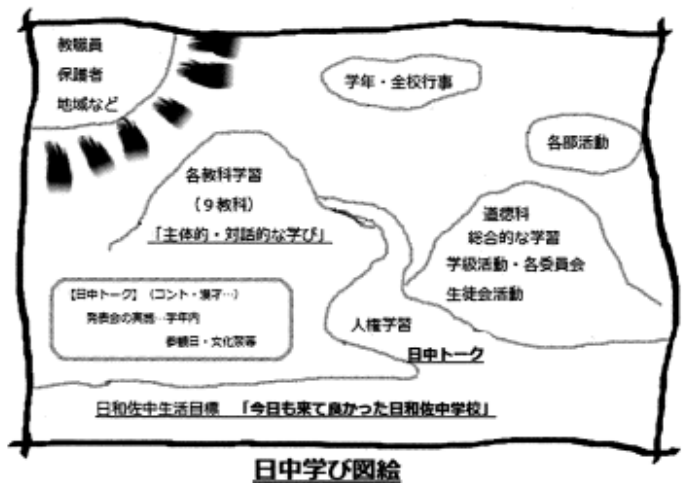
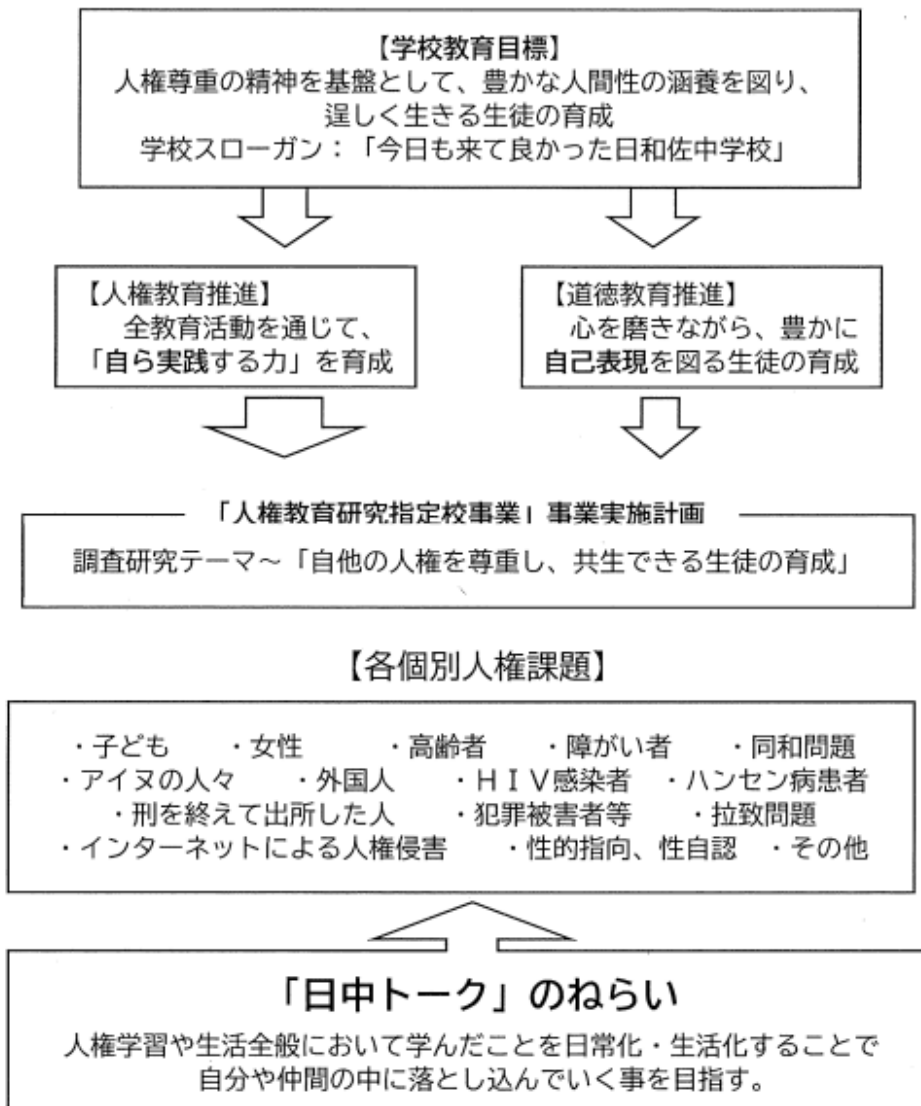
○最初はトークのテーマを指定し、取り組みやすくする。

○学習したことをもとに日常生活を振り返り、ネタになる材料を集める作業をする。

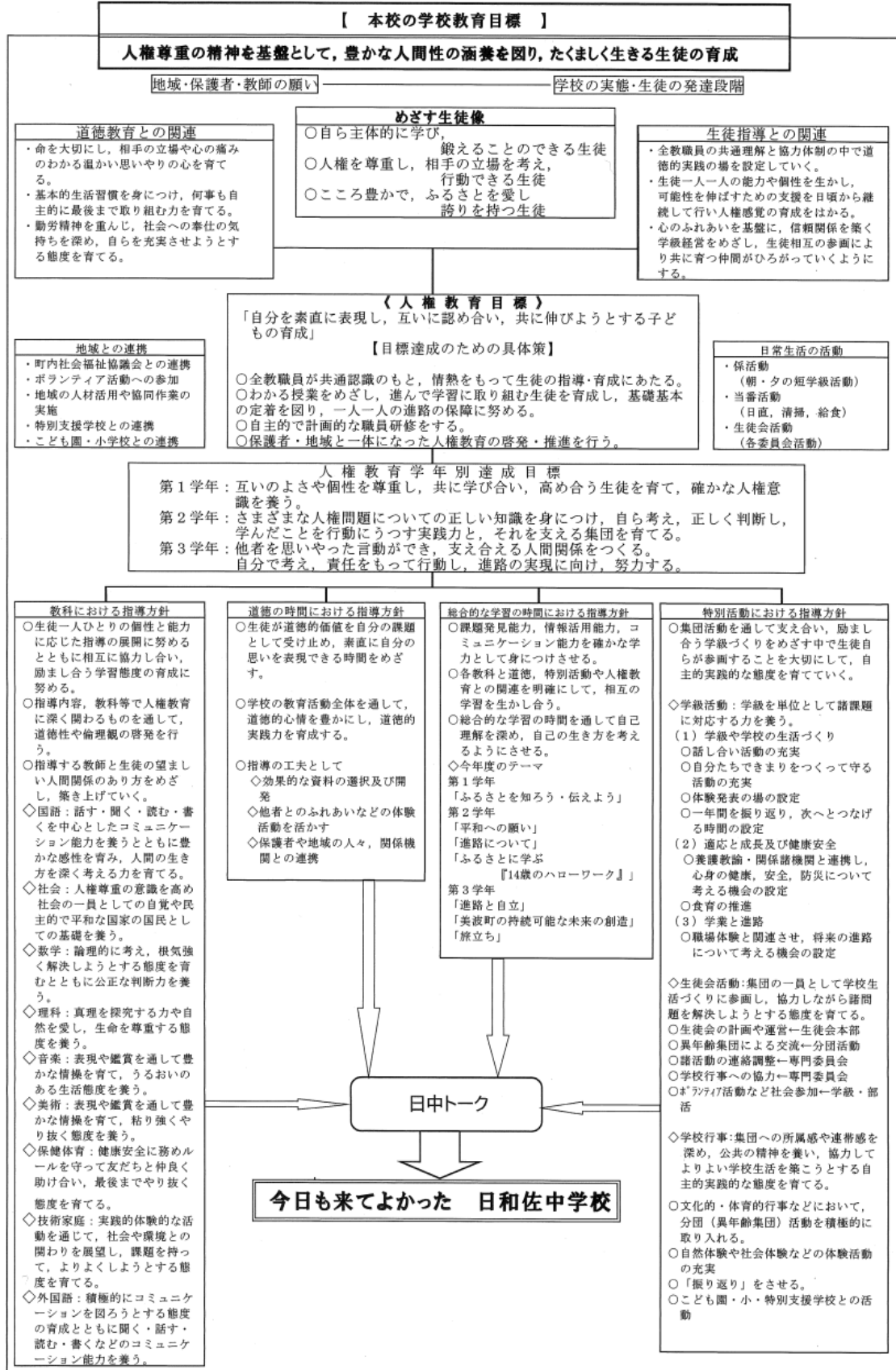
○形づくりができれば、互いに披露しあい、修正点やよいところを検討しあう。

○集会などで披露し、他のトークに感想や意見を出す。

(3) 「日中トーク」の構想図



2 人権教育全体構想図



3. 人権教育目標と具体策

(1) 人権教育基本目標

「自分を素直に表現し、互いに認め合い、共に育とうとする子どもの育成」

(2) 本年度の努力目標

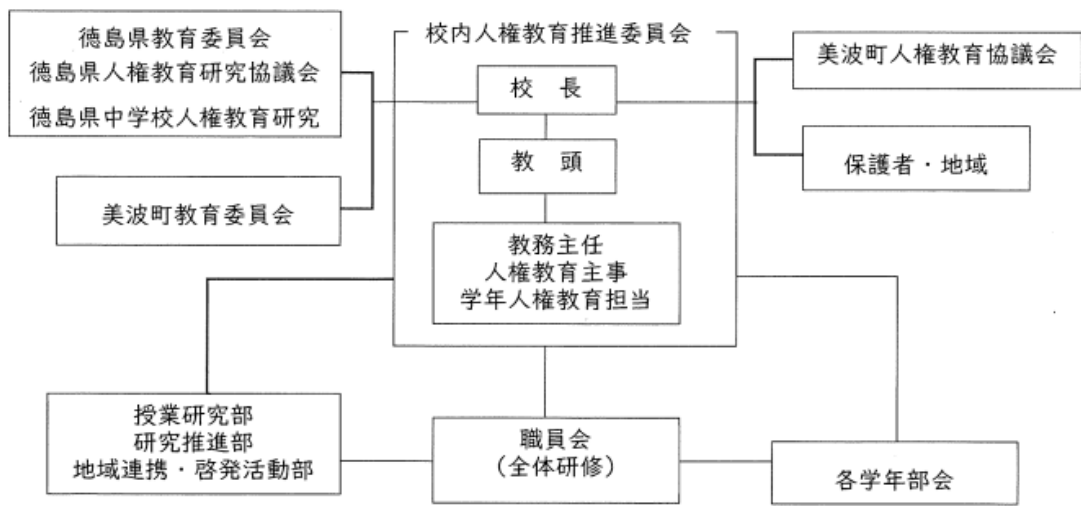
- ①生徒一人ひとりを大切にする教育の徹底
 - 人権教育を教育の中核に位置づけた実践
 - 教職員の研修による人権教育観の確立
 - 一人ひとりを見つめ、生徒に寄り添う教育の推進
- ②学習指導法の改善と充実
 - 個別指導の重視と基礎学力の向上
 - 指導法の工夫改善とよくわかる授業の展開
- ③基本的生活習慣の育成
 - 礼儀正しく、望ましいスクールマナーを身につけた生徒
 - ボランティアの心を持ち、豊かな人間性を身につけた生徒
- ④地域社会との連携
 - 保護者や諸機関、諸団体との情報交換と地域行事への積極的参加

(3) 目標達成のための具体策

- ①「日中トーク」の実施
 - 実施対象と教科・・・全学年。学級活動と総合的な学習の時間に実施。
 - 実施方法
 - ・日中トークの実施時期と場所、形式を複数回設定し、生徒に周知する。発表の場を参観日や集会、オープンスクールなどに合わせ、保護者にも参観してもらう。トークの様子を、学校新聞等で知らせる。
 - ・ペアや班づくりをし、発表めざして学級でトークを作る。学級内で披露、検討し、よりよいものにする。
 - ・校内で発表し、評価しあう。
- ②体験的な学びと教科横断的学習を重視した人権教育の推進
 - 授業改善
 - ・3側面（知識的側面、価値的・態度的側面、技能的側面）ごとの評価指標を元にした指導計画の作成
 - ・体験的な学びを取り入れる授業の工夫
 - ・道徳科・総合的な学習の時間・学級活動の時間は、学年団の教職員は全員が授業に参加する。全員が授業に関わり、授業前後の生徒の変容について記録し、授業改善を共に協議する。
 - ・校内研修の充実と、授業研究会の実施。校外研修の内容を教職員で共有する。
 - ・教科担当者は、人権年間計画の「教科との関連」の予定表を適宜修正し、授業予定を周知する。積極的に他教科の授業を参観、またT2として授業に参加し、教科横断的な学習の研究を共に行う。
 - 個人権課題についての教育の推進
 - ・人権教育資料「わたしの願い」を活用した同和問題についての学習の実施（全学年）
 - ・オンラインを活用したハンセン病国立療養所との交流学习の実施（1年生：総合的な学習の時間）
 - ・外国との文化の違いや、生活・宗教についてのALTや短期留学生との対話（全学年：英語科）
 - ・近隣の支援学校との授業交流（3年生：学級活動）および行事交流（全学年：課外活動）
 - 講師を招いての講演や体験活動・地域行事への参加
 - ・「同和問題」について講演会の実施（生徒・教職員）
 - ・講師を招いての講演や体験活動（2年生：家庭科：高齢者疑似体験、3年生：家庭科：赤ちゃん授業、3年生：社会科：アイヌ文化とアイヌの人々の人権についての講演など）
 - ・アスリート講演会や海外ボランティア体験者の講演などを実施し、多様な生き方に触れさせる。（全学年：総合的な学習の時間）
 - ・美波町「にこにこ人権フェスティバル」など、地域行事への参加（生徒希望者：課外活動：日中トーク）

- ③人権の視点に立った学校環境づくり
 - 生徒会活動の充実と生徒による学校環境づくり
 - ・人権・ボランティア委員会による「あいさつ運動」や人権につながるメッセージの作成・掲示、人権啓発活動や行事への参加呼びかけ、人権集会の進行
 - ・環境美化委員会による清掃活動の充実と花の世話、図書委員会による人権関連図書の広報など、各専門委員会による人権の視点に立った取組
 - ・生徒による学年の活動を紹介する掲示物づくり（全学年：学級活動）・・・肯定的コメントを意識させる
 - 人権の視点に立った学校環境づくり
 - ・日常生活において、教職員が肯定的な言葉を使い、互いに認め合う人間関係づくりのモデルになる。
 - ・人権学習の各学年での取組や、人権教育に関する情報等の掲示を、掲示物や学年通信などで行い、教職員間や生徒・保護者と、学校の取組の状況を共有する。
- ④コミュニケーション能力の育成とプレゼンテーションのスキルアップをめざす教育活動
 - コミュニケーション能力の育成をめざした授業展開の研究
 - ・専門教科の授業研究だけでなく、他教科の授業を参観し、教科を越えた授業研究を行う。
 - ・積極的な教材研究や、校外の授業研究会への積極的に参加する。
 - タブレットの活用による、まとめ学習やプレゼンテーション作成を活動に取り入れる。
 - 教職員自身の知識やスキルを更新する研修の充実
 - ・ICT サポーターに協力してもらい、随時研修や ICT の整備を行う。
- ⑤互いに承認しあい、支え合う集団づくり
 - 日中トークの基本ルールである「マイナス言葉を使わない」を生活全般に適用する。
 - 学校行事や日中トークで、共に作りあげようとする学級の雰囲気をつくる。
- ⑥進路指導の充実
 - 基礎学力の向上を図り、進路保障に努める。
 - 将来への展望を持たせ、充実した生活につながる個別指導を行う。
- ⑦よりよい教育活動のための研究の推進
 - 定期的に生徒の状況を把握するためのアンケートを実施し、指導の評価と改善を行う。
 - 「日中トーク」のノウハウを蓄積・改善に取り組む。

4. 人権教育の推進体制



6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

